

# 月報 シオン山

2021年7月4日発行 (No370)

\*\*\*\*\*

## 日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

\*\*\*\*\*

### 【月間聖句】

イエス・キリストによって与えられる義の実を  
あふれるほどに受けて、神の栄光と誉れとを  
たたえることができるように。

(フィリピの信徒への手紙 1章11節)

### 祈りの大切さ

島田利一

本好きな私としては、新刊、古書等々ジャンルを問わず（恋愛小説は苦手）取引先帰り書店や行きつけの古書店に立ち寄り、何か無いかな？と本探しをするのだが、特に一般の人が余り求めない本を買求める傾向が多い私です。幼稚園の園児の頃から潮書房光人社の月間誌「丸」（漢字を飛ばして読んでいた。）中学1年生からは、ジャパンミニタリーレビューの軍事専門誌の「軍事研究」などの購読をしていました。

東京在住時は、親会社のコマーシャル等を作る子会社に所属していて、日曜日になかなか休みが取れず、平日の休日に神保町辺りに出向いて、所望の本探しをした事を思い出します。そのせいか今では私の書斎の押入れを改造して書庫として、ぎっしりと隙間のないくらいに本やvhsソフト、DVD やブルーレイソフトが詰まっており、それでも入りきれず、自宅駐車場横のイナバ物置の中にも、ぎっしりと本で埋まっており、総数は1万冊を超えていると思います。

石(岩)好きな父(今回、これで骨折をした。)が我が家の庭を石(岩)だらけにして、家族の不評をかいましたが、現在は、その父が「このままでは、この家は本で潰れる」と私によく文句を言っています。しかし、「この中をどうにか整理整頓しなければならない。」と思い、取引先に行かない平日のある日に、意を決して、書庫を片付けるべく天井までぎっしり詰まった本を一冊ずつ降ろしていくうちに、一冊の雑誌に目が止まった。

その雑誌は1999年4月19日発売の週刊ベースボールである。私は大のプロ野球ファンであり、NPB16球団推進北九州部会のメンバーであり、独立リーグBCL(ルートインベースボールチャレンジリーグ)、そして社会人野球の東京メッツのファンクラブ会員の私としては、現在でも定期購読している雑誌である。

その特集は「恐るべき10代」と言うタイトルで、西武ライオンズの高卒ルーキー松坂大輔の特集である。その松坂と対比する形で、西武の前身、西鉄ライオンズで鉄腕稲尾こと稲尾和久(1961年にIシーズン42勝、防御率1.69の日本記録)、池永正明(西鉄を中心に賭博行為の中心的人物で、球界を大混乱に落とし入れた黒い霧事件の中心で、球界を永久追放になり後に名誉回復し西鉄が球団を手放すきっかけになった)、その後の大貧乏球団の福岡野球株式会社(スポンサーに太平洋クラブ、その後クラウンライター)を背負った東尾修の3人との対比しての特集である。

興味深く1ページ、1ページ読んでいたうちに、すっかり暗くなり、何のために書庫整理をしたのか、解らなくなったその時、後ろのページに一枚のモノクロ印刷の写真が目に入って、その写真に驚き、更にその記事を読んで後頭部を思いっきり金属バットで殴られ、目から花火が飛び散った様な衝撃を憶えた。そのモノクロ写真の内容は、立教大学3年時の長嶋茂雄が学生服姿で大学チャペルで跪いて手を合わせて祈る姿である。その姿は、何処か聖画のポストカードで見た光景であった。その衝撃を受けた記事を皆様に紹介する為に転載します。

長嶋の祈りは聞き届けられるか・・・

祈る長嶋茂雄・・・

「天衣無縫の野生児も立大時代は構内にあるチャペルで神の前に跪くこともあったのだ。これは1956年12月クリスマスを前にしたある日の1枚。この年の秋の東京六大学野球リーグ戦で3年生の長嶋は3本塁打の固め打ち。通算本塁打数を6とし、

六大学記録まであと1本と迫った。「3本が固め打ち？」といぶかしがる向きもあるかもしれないが、このシーズンの六大学の総本数が5と言えば長嶋の凄さが分かってもらえると思う。当時の六大学投手レベルは今のプロ以上だった。

立大の英文名称は「セント・ポールズ・ユニバーシティ」。聖パウロの教えを説く聖公会が母体のミッション系大学。長嶋がチャペルにいるのはごく自然なのだが、この冬だけは神に祈らざるを得なかった。56年立大は健闘しながら連続2位。来年こそ優勝したい。そして新記録の8号本塁打で優勝を飾りたい。この願いを何としても神に聞き届けてもらわなければならなかったのである。もちろんキリスト教は御利益宗教ではない。長嶋だって勝手なお願いと承知していたはずである。それでも祈りたかった・・・。願いは叶った。57年春に立大は8シーズンぶりの優勝。長嶋は7号本塁打タイ記録。秋も優勝して長嶋はとうとう新記録の8号本塁打を放った。しかも2度目の首位打者を獲得。まさに満願成就だった」。

この記事を読んで自分自身情けなく思えた。未信者の長嶋が主の前で真剣に祈りを捧げたと思う。そして彼は、血の汗を流す猛練習につぐ猛練習をしたに違いない。逆に、自分は、真剣に祈っているだろうか。形だけの祈りになっていないだろうか。そして、シオン山教会で真剣に奉仕をして、主に喜ばれる者になっているだろうか。長嶋茂雄と私とでは、置かれている環境も立場も違うが、彼は祈って願いを手にした。教会創立100周年記念委員長を拝命している私としては、その職責の重さをしっかりと自覚して、祈ってキリストの体である教会での奉仕をしていかなければならないと思う。教会創立100周年記念礼拝は、あと1年に迫った。